















## 注目ポイント







- ✓先週は、注目された4月の米CPIが市場予想を下回る伸びとなり、FRBが利下げを先送りするとの懸念が後退したため、米国株が大幅に上昇。17日にNYダウは終値ベースで史上初の4万ドル台となった。また4月の米CPIを受けて米長期金利が大幅に低下し、ドル円は16日の東京市場で一時1ドル153円60銭まで円が上昇した。ただその後は、FRB高官が早期の利下げに慎重な見方を示したことから円売りドル買いが優勢となり、結局、1ドル155円台後半まで円は下落した。一方、日本の長期金利は、日銀の国債買い入れオペの減額を受けて、水準を切り上げた。
- ✓今週は注目度の高い米経済指標の発表もなく、ドル円はもみ合いを見込む。一方、株式市場では米国株が上値を試す展開となっており、この点が日本株の追い風となろう。22日に予定されている米半導体大手エヌビディアの決算発表に注目。(北田英治)







## ①マーケット動向(実績)

2024年5月13日 ~ 2024年5月17日

市場・指標		5月13日 ~ 5月17日		5月17日	前週末比		トレンド (直近2か月)	
		高値	安値	終値	騰落幅	騰落率		
株式	 日本 日経平均(円)	38,949	37,970	38,787	+558	+1.5%		・日経平均株価は大幅に上昇。14日には前日の米株式市場でハイテク株が堅調だった流れを引き継ぎ、東京市場でも半導体関連株などに買いが入った。16日も前日の米株式市場で主要3指数が過去最高値を更新したことを受けて、日経平均株価は大幅に上昇した。 ・NYダウは大幅に上昇。週初13日には人工知能(AI)向け半導体への期待から半導体関連株の一部が上昇した。15日には4月の米CPIが市場予想を下回る伸びとなり、FRBが利下げを先送りするとの懸念が後退したため、主力株に買いが入った。週末17日にも米経済に対する楽観的な見方から景気敏感株などに買いが入り、NYダウは終値ベースで史上初の4万ドル台となった。
	 米国 NYダウ(ドル)	40,051	39,372	40,004	+491	+1.2%		
	 ドイツ DAX(ポイント)	18,893	18,628	18,704	-68	-0.4%		

市場・指標		5月13日 ~ 5月17日		5月17日	前週末比		トレンド (直近2か月)	先週の動き (英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)
		最高	最低	終値	変化幅(%)			
金利(国債)	 日本 10年(%)	0.965	0.910	0.950	+0.050			・日本の長期金利は週間ベースで上昇。日銀が13日に実施した定例の国債買い入れオペ(公開市場操作)で、残存期間「5年超10年以下」の購入予定額を4,250億円と前日から500億円減らした。市場では日銀の早期の政策正常化が意識されて、幅広い年限で国債が売られた。ただ週の半ばには、米長期金利の大幅な低下を受けて、日本の長期金利が一時低下する場面もあった。 ・米国の長期金利は低下。15日には4月の米CPIの前月比上昇率が市場予想を下回り、FRBによる利下げ開始が遅れるとの観測が後退したため、債券に買いが入った。ただ週末にかけて、持ち高調整の債券売りが優勢となった。
	 米国 10年(%)	4.53	4.31	4.42	-0.08			
	 ドイツ 10年(%)	2.56	2.40	2.52	-0.00			

市場・指標		5月13日 ~ 5月17日		5月17日	前週末比		トレンド (直近2か月)	先週の動き (英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)
		高値	安値	終値	変化幅(円)			
為替	 米ドル(円)	156.74	153.60	155.65	-0.13			・ドル円は週間ベースでやや円高ドル安となった。15日には4月の米CPIを受けて米長期金利が低下し、ドル売りが優勢となった。16日の東京市場では一時1ドル153円60銭まで円が上昇する場面もあった。ただその後は、FRB高官が早期の利下げに慎重な見方を示したことから円売りドル買いが優勢となり、結局、1ドル155円台後半まで円は下落した。 ・ユーロ円は円安ユーロ高が進展。米長期金利の低下を受けてユーロが対ドルで買われたことから、ユーロは対円でも上昇した。週末17日にはECB理事の発言を受けてECBが利下げに慎重な姿勢であることが意識され、ユーロ買いが優勢となった。
	 ユーロ(円)	169.40	167.33	169.17	+1.41			
	 豪ドル(円)	104.30	102.61	104.20	+1.33			

市場・指標		5月13日 ~ 5月17日		5月17日	前週末比		トレンド (直近2か月)	先週の動き (英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)
		高値	安値	終値	騰落幅	騰落率		
その他	 日本 東証リト(ポイント)	1,825	1,793	1,800	-6	-0.3%		・原油先物は上昇。15日には週間の米石油在庫統計を受けて需給が引き締まるとみられ買いが優勢となった。16日にはFRBが年後半に利下げに動くとの見方から、原油の需要落ち込みへの懸念が薄れ、買いが優勢となった。週末17日には、中国の4月の工業生産が市場予想を上回り、中国の製造業の底堅さが原油需要を支えるとの期待などから、原油先物が上昇した。 ・金先物は上昇。週初13日には、高値警戒感から利益確定の売りが優勢となった。ただ15日には4月の米CPIの発表後に米長期金利が一時約1か月ぶりの水準に低下したため、金利のつかない資産である金先物の投資魅力が増すとみられ買いが入った。
	 米国 NY原油(ドル)	80.14	76.70	80.06	+1.8	+2.3%		
	 米国 NY金(ドル)	2,427	2,338	2,417	+42	+1.8%		

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。



## ②マーケット動向(予想) 2024年5月20日 ~ 2024年5月24日

**株式** 強含みもみ合いを見込む

日経平均株価  
【予想レンジ】 38,300 円 ~ 39,300 円

- 今週の日本株は強含みもみ合いか。米国株が上値を試す展開となっていることが、日本株にも追い風となろう。また、外為市場の変動が落ち着いてくれば、新年度の企業業績を期待した見直し買いが入りやすくなるとみられる。
- 今週は米半導体大手エヌビディアの決算発表が22日に予定されている。人工知能(AI)向け需要の拡大を確認できる内容となれば日本市場でも半導体関連株に買いが入り、日経平均株価を押し上げよう。



**金利(国債)** 弱含みもみ合い(長期金利はやや上昇)か

10年国債利回り  
【予想レンジ】 0.930 % ~ 0.970 %

- 今週の債券相場は弱含みもみ合い(長期金利はやや上昇)か。先週の国債買い入れオペ(公開市場操作)の減額を受けて、市場では日銀の早期追加利上げに対する警戒感が強まっており、長期金利は上昇圧力がかかりやすくなっている。22日に予定されている40年物国債の入札で投資家の債券投資意欲を確認したい。



**為替(米ドル)** もみ合いを見込む

米ドル/円  
【予想レンジ】 154.00 円 ~ 157.00 円

- 今週のドル円はもみ合いか。先週、4月の米CPIを受けてFRBが利下げを先送りするとの懸念が後退し、一時円高ドル安方向に振れたものの、その後はFRB高官の発言を受けてドル買いが優勢となった。市場は米国の物価動向を先週いったん消化したため、今後は米景気の動向に関心が移るとみられるが、今週は注目度の高い米経済指標の発表がない。22日に発表されるFOMC議事要旨(4月30日~5月1日開催分)でタカ派的な発言が目立てば円売りドル買い圧力が高まりやすいものの、日本政府・日銀による円買い介入への警戒感もあり、円の下値は限られよう。



英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。

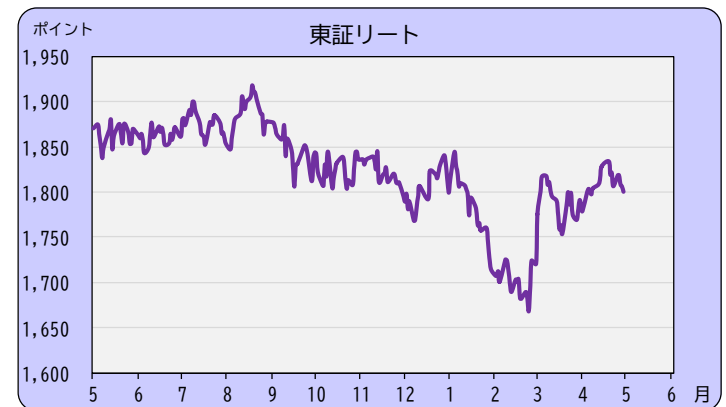
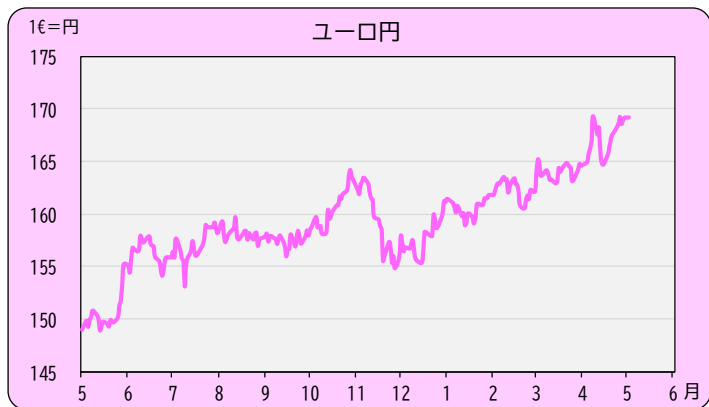
### ○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
5/20(月)	第3次産業活動指数(3月)	
5/21(火)		
5/22(水)	40年物利付国債の入札 貿易収支(4月)	米国: 中古住宅販売件数(4月) 米国: FOMC議事要旨(4/30~5/1開催分)
5/23(木)		
5/24(金)	全国消費者物価指数(4月)	米国: 耐久財受注(4月) 米国: ミシガン大学消費者態度指数(5月)確報値



## ③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

### ※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
CTFC	米商品先物取引委員会	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FFレート	フェデラルファンド金利	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率	YCC	イールドカーブコントロール

### ●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。